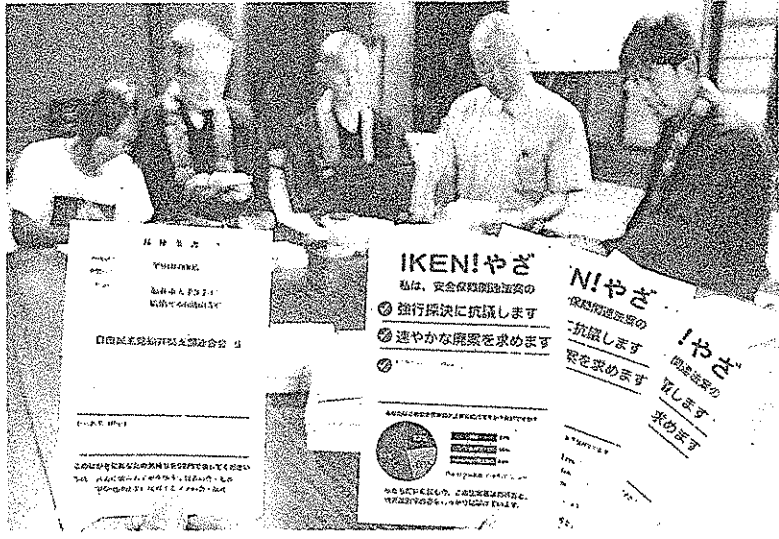


9/3
県民新聞

安保法案「イケんやざ」

安倍政権が今国会での成立を目指す安全保障関連法案の参院審議が進む中、福井大や県内宗教界の有志らが二日、それぞれ県庁で会見し、廃案を訴えた。(平野誠也、藤共生)



安保関連法案に反対の意見を表明するはがき(手前)について話し合う県内の宗教者と母親たち。福井市の専光寺で。

県内宗教者と母親組織

賛同者募り

はがき作成

県内の宗教者十人でつくる「武力に依らぬ平和を願う宗教者の会・福井」と、県内の母親十人による「安保法案に反対するママの会・福井」は、安保関連法案に反対を表明するはがきを作成し、二日から賛同してくれる県民に配布を始めた。はがきには「意見」と「連署」を掛けて「IKEN N! やざ」と書かれている。「私は安全保障関連法案の強行採決に抗議します、速やかな廃案を求めます」と続く。自民党県選出の衆参両院議員に宛てた四種類があり、四千枚を作成。賛同者には五十二田切手を貼って送ってもらう。署名は任意。

宗教者の会は浄土真宗本願寺派(西)、真宗大谷派(東)、曹洞宗、日本聖公会、日本キリスト教団の有志十人が八月半ばに立ち上げ、週一回程度の会合を重ねてきた。ママの会は七月に四人で発足。フェイスブックで賛同者を募ってきた。県庁で会見した宗教者の会の藤兼衆さん(五〇)「あわら市」は「国民の広範な議論がなされぬまま、憲法を無視して法案を通そうとする問題は大きい」。小学二年生の長男を育てるママの会のヤング有希子さん(四〇)「福井市」は「海外では日本が七十年間戦争をしてい

ないことを尊重する声が大い。法案が通れば戦争に巻き込まれる危険性が高くなる」と訴えた。はがきは、あわら市下番の福円寺、福井市春山二丁目

福大教員が有志の会 ネットで署名集めも



安全保障関連法案に反対する「有志の会」設立を発表する森透教授(右)＝2日、県庁で

福井大の教員らは、法案の廃案を求める「有志の会」を設立し、声明を発表した。同大関係者を主な対象に、インターネットで声明に賛同する署名集めも始めた。会は学内の教員ら二十九人が呼び掛け人となって結成した。呼び掛け人代表は同大大学院教育学研究科の森透教授(六〇)が務める。声明では、憲法解釈の変更で集団的自衛権の行使を

可能にすることは「立憲主義の精神から断じて認められない」と主張。「日本の平和を守り、子どもや若者を戦争に行かせないために私たちは今こそ立ち上がるべきときだ」と呼び掛けている。会は学生や職員、卒業生らにも賛同を求める。森教授は「専門分野を超え、これはおかしきという声がある。そうした声を幅広く集めたい」と話した。

目の福井聖三一教会、越前市深草二丁目の金剛院に置かれる。ママの会への参加はフェイスブック(「安保法案に反対するママの会福井」で検索)で。